

環境情報 Magazine

2017 Autumn

VOL. 5

全国ユース 環境ネットワーク



ご挨拶



独立行政法人環境再生保全機構

理事長 福井 光彦

平素は、環境行政及び地球環境基金事業にご協力を賜り、御礼申し上げます。

地球上では、二酸化炭素による温暖化、砂漠化や熱帯林の減少、生物多様性の損失など様々な環境問題が深刻化しています。

こうした中、2015年9月に、ニューヨークの国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催され、2030年をターゲットとした持続可能な開発目標（SDGs）が採択されました。SDGsは、気候変動、陸上生態系の保護、持続可能な消費と生産など17の地球規模の課題解決に向けた目標を掲げ、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指しています。我が国においても行政をはじめ、企業、NGO・NPOにおいてもSDGsに対応した様々な取り組みが始まっています。

また、2015年に気候変動枠組条約第21回締結国会議で採択された「パリ協定」は、2016年11月に発効し、歴史上初めて先進国と途上国の区別なく、温室効果ガス削減に向けて自国で目標を定め達成を目指すことになりました。我が国においても、2030年度には26%（2013年度比）、長期的には2050年までに80%の温室効果ガスの排出削減を目指しています。こうした大幅な排出削減は従来の取り組みの延長では実現が困難とされ、抜本的な排出削減を可能とする革新的技術の開発と目標達成に向けた国民の一層の協力が求められています。パリ協定の発効で、世界の社会経済活動は脱炭素社会に向けて大きく動き出したと言えるでしょう。

こうした「持続可能な開発の達成」や「気候変動への対応」を推進していく上で、「様々な主体の参加と連携」や「長期的視点」がますます大切となっており、とりわけユース世代の役割が重要となってきたことは言うまでもありません。

こうした状況をふまえ、一昨年度から環境省と独立行政法人環境再生保全機構において創設した「全国ユース環境ネットワーク促進事業」の一環として、環境省、独立行政法人環境再生保全機構及び国連大学サステナビリティ高等研究所の主催で全国ユース環境活動発表大会を開催しています。全国から選りすぐりの環境活動を実践する高校生が、日頃の活動内容を披露しあい、同世代が行う活動から多くの気づき、学びを得ることを期待するものです。

第3回目となる今回からは、SDGsの17の目標のうち環境問題に関係する12の目標のいずれかに当てはまる活動からご応募いただくことになりました。今、高校生であるみなさんは、2030年には社会の第一線で活躍する世代になっています。ユース自らの行動が地球規模の目標達成と密接に結びついていることをより実感いただけるものと考えております。

皆様方におかれましては、本事業の趣旨をご理解いただき、積極的な参加をいただきますよう、お願い申し上げます。

「第3回 全国ユース環境活動発表大会」

日程決定!

2018年2月3日(土)~4日(日)
2日間! 国連大学で開催!

応募
受付中!

「全国ユース環境活動発表大会」とは・・・

出会いの場

環境活動を実践する
全国の高校生・大学生が
一堂に集まります。

発表の場

創造力を働かせて
行っている自らの
環境活動を発表します。

相互研鑽の場

他校の活動を知り、
意見交換をし、お互いに
研鑽しあいます。

■事務局より、「第2回大会」の様子をご紹介します。

◇全国大会は2日間開催!

第2回全国大会は、2日間開催しました。1日目は「ESD学びあいフォーラム」、2日目は「環境活動発表大会」と「表彰式」。発表と表彰だけでなく、基調講演やワークショップを実施し、環境活動を推進している先輩や仲間と出会い、有意義な交流の時間を過ごしました。

◇発表時間は、およそ1校あたり10分間!

第2回大会は、高校16校、大学2団体が発表しました。それぞれの持ち時間はおよそ10分間!決められた時間で、熱意を持って、しかもわかりやすく活動発表をされました。

◇環境大臣賞などを贈賞!(第2回大会実績)

<高校生>

- ・環境大臣賞 1校 副賞:アメリカ環境研修
- ・環境再生保全機構 理事長賞 1校 副賞:北海道環境研修
- ・国連大学サステナビリティ高等研究所 所長賞 1校 副賞:石川県金沢環境研修
- ・特別賞 2校
- ・優秀賞 11校

<大学生>

- ・環境大臣賞 1団体
- ・独立行政法人環境再生保全機構 理事長賞 1団体

◇第2回大会 参加者の声

<参加した高校生の感想>

1日目のワークショップで他校生や大学生との交流が出来たことがとても有意義でした。2日目の発表会では、本校の活動を情報発信することができ、これからも環境教育活動を持続的に行うことが重要であると認識できました。

<参加した先生の感想>

どの生徒も貴重な体験ができ、活動にも意欲が湧いたものと感じております。大会を終え、出場した生徒が学校に戻り、自主性が増え、日々成長しているように思います。2日間でしたが、得たものは大きいようです。



ワークショップで学び中!



高校生の発表の様子



環境大臣賞 記念撮影

「第3回 全国ユース環境活動発表大会」にぜひ応募をしてください!



高校生のみなさんは、
詳しくはP5~P6をご覧ください。



大学生のみなさんは、
最終ページをご覧ください。

「第2回 全国ユース環境活動発表大会」 環境大臣賞 副賞 体験レポート

2017年7月、第2回 全国ユース環境活動発表大会にて環境大臣賞を受賞した長崎県立諫早農業高等学校の3名が、アメリカ・シアトルで環境調査を行いました。参加した高校生の感想を紹介します。

高校生参加による アメリカ環境調査



長崎県立諫早農業高等学校
中央左から3年 木村明里さん、
2年 前田悠花さん、3年 笹木伶於さん

環境調査場所：アメリカ合衆国ワシントン州シアトル
高校生調査団：長崎県立諫早農業高等学校 食品科学科



研修概要

●目的：コミュニティガーデン、公園等の視察、若者向けの教育・ボランティアプログラムへの参加、NPO/NGO・大学・行政への訪問を通し、米国シアトルにおける環境活動を学ぶ。

●場所：アメリカ合衆国ワシントン州シアトル

●研修場所：パイクプレイス・マーケット、アメリカ環境保護局(EPA)、Ballard Locks 水門、ワシントン大学(UW)シアトル校、ワシントン州日本文化&コミュニティセンターなど。

高校生 感想



木村 明里さん(3年)

アメリカの環境保護局(EPA)で私たちの環境活動のポスターセッションを行い、思いを伝えることができました。発表とのつながりでアメリカの廃棄物は日本と同じように堆肥として利用されていることを知りました。しかし、廃棄物として山積みにすることもあると聞きました。そこで、私達の環境活動に興味を持っていただき、参考にしてもらえることに驚きを感じました。また、アメリカの子供たちに日本の食文化を紹介できました。子供たちは興味津々に聞いてくれました。研究開発した新商品のお菓子や和紙の実物を紹介し、興味を持ってもらいました。多くの方々とコミュニケーションしたり、交流することで私は大きく成長することができました。



笹木 伶於さん(3年)

私たちも自分たちで栽培した農作物を使って加工品を作っていますが、シアトルで訪れたレストランも地産地消や有機農法というコンセプトとしたもので、とても環境に優しいということが分かりました。自分たちの取り組みの一つである地域密着型について自分達との違いを知ることができました。今回の研修は日本だけでは知ることがなかった活動を知ることができたと思います。



前田 悠花さん(2年)

今回のアメリカ・シアトル研修で海外の人と交流、情報交換をする事の素晴らしさを学びました。環境保全活動はたった1人の活動だけではあまり効果が見られないと私は考えています。研修前までは日本国内の環境問題、それに対する環境保全活動等、狭い部分の活動しか学んでおらず、海外のことにはあまり興味・関心を持っていませんでした。しかし、今回海外の人との交流を通して多くのことを学び、とても視野が広がりました。国が違えば季節も違うし、季節が違えばその国にとっての大きな環境問題もまったく違うため、私の知らない部分に目を向け、それに伴った活動を行っているアメリカ・シアトルの環境保全活動にとっても関心が持てました。

応募特典

「第3回 全国ユース環境活動発表大会」にご応募いただくと・・・

大会に出場
できなかった団体

抽選で・・・

環境省『キャリア形成支援プログラム』
ご招待!

詳しくは、P6の資料をご請求ください!

特典②

今回、ご応募いただくと・・・

「全国ユース環境ネットワーク」の各種情報もご案内

全国ユース環境ネットワークでは、「全国ユース環境活動発表大会」の開催のほか、1年を通してユースの方々の交流や研修などを目的に、①環境イベントの実施、②情報誌の発行、③環境省事業との連携を進めています。

今回、ご応募いただくと・・・

全国ユース環境ネットワーク事務局より、情報誌やイベントなどのご案内をさせていただきます。
みなさまも、ぜひネットワークに参加して、全国のたくさんのユースの方々と交流してください。

環境イベント(参考事例)

～過去の事例をご紹介します～

「高校生環境座談会」



将来の日本や世界が持つ環境課題の解決に寄与するため、「高校生」が集まり、思いを話し合いました。

「企業環境研修」(キリン)



キリン横浜ピアビレッジで、「自然の恵みを感じるツアー」を体験。企業の環境方針も研修。

「企業環境研修」(協栄産業)



協栄産業で、限りある資源を次世代にもつなげるために何ができるのかを学びました。

ユース情報誌

全国ユース環境ネットワーク事務局では、1年に2回、情報誌「全国ユース環境ネットワーク」を発行しています。また、今年の3月には、「全国ユース環境活動 事例集2016」を発行しました。第2回大会にご応募いただいた高校生の環境活動を掲載し、環境活動を実践している全国の高校にご紹介しました。

今回、ご応募いただくと、来年3月発行の「事例集」に掲載させていただきます。

環境省事業との連携

①(2016年) <環境省>『+ESD(プラス・イーエスディ)プロジェクト』

『+ESD プロジェクト』は、環境省が運営する情報プラットフォームです。大会に応募いただいたたくさんの高校がこのプロジェクトに登録され、環境省のホームページに掲載されました。

②(2017年) <環境省>『Re-Style』

『Re-Style』は、環境省が運営する Web サイトの名称。循環型社会のライフスタイルを『Re-Style』として提唱しています。Web サイトでは、高校や大学の環境活動が紹介されています。現在、高校や大学の掲載希望者を募集しています。
(ご希望の方は、全国ユース環境ネットワーク事務局にお問合せください。)



全国ユース環境活動 事例集2016

Re-Style

限りある資源を未来につなぐ。
今、僕らにできること。

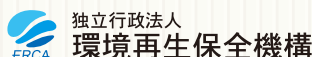
全国から高校生・大学生が集まり、環境活動の発表と表彰式をする大会です！



「第2回 発表大会」記念撮影

全国ユース環境活動発表大会

＜主催＞ 全国ユース環境活動発表大会 実行委員会
環境省
独立行政法人 環境再生保全機構
国連大学サステナビリティ高等研究所



大会概要

名 称 第3回 全国ユース環境活動発表大会

日 程 2018年2月3日(土)～4日(日)

(1日目) 全国ユース環境フォーラム (2日目) ユース環境活動発表大会、表彰式

主 催 全国ユース環境活動発表大会 実行委員会
〈環境省・独立行政法人 環境再生保全機構・国連大学サステナビリティ高等研究所〉

会 場 国連大学 ウ・タント国際会議場 (東京都渋谷区神宮前5丁目53-70)

協 力 環境省地方環境パートナーシップオフィス (EPO)
地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)
ESD活動支援センター

全国大学生環境活動コンテスト実行委員会

協 賛 キリン株式会社
協栄産業株式会社
SG ホールディングス株式会社
三井住友海上火災保険株式会社

KIRIN

SoH

KYOEI

MS&AD

三井住友海上

大会 プログラム (予定)

1日目 2月3日(土) 13:00～18:00頃
「全国ユース環境フォーラム」(仮称)

- ◇ 開会式
 - ◇ 基調講演 (今年度のテーマ・講師＝未定です。)
 - ◇ ワークショップ
 - ◇ 交流レセプション (盛り上がって、交流&情報交換を!)
- ※2月3日(土)は、遠方の方については、主催者において
宿泊をご用意いたします。



第2回大会 ワークショップの様子

2日目 2月4日(日) 9:30～15:00頃
「ユース環境活動発表大会・表彰式」

- ◇ 高校生環境活動 発表
- ◇ 大学生環境活動 発表
- ◇ 審査委員 講評
- ◇ 表彰式 ～表彰状贈呈～
- ◇ 閉会式



第2回大会 発表の様子

まずは、資料を請求してください。詳しい資料をすぐに送ります！ **資料請求用紙＝送付状の裏面**

資料請求 本誌に同封の「大会資料請求用紙」を、下記事務局あてにFAXまたはメールにてお送りください。

◇資料をご請求いただくと、事務局より「応募のご案内」・「応募用紙」などの必要資料をお送りします。

応募締切

2017年11月6日(月) 18:00

までに「応募用紙」ほか必要資料を事務局あてにお送りください。

※ご提出いただいた書類は、返却いたしません。ご了承ください。

資料請求先

FAXまたはメールにて、「大会資料請求用紙」をお送りください。

FAX番号：044-520-2192 Email：youth@erca.go.jp

全国ユース環境ネットワーク事務局あて

高校生が実践している環境活動の事例を募集しています！

応募資格

環境活動の実践者が高校生であれば、応募できます。

高校や所属団体を通じて応募してください（高校以外の活動団体も可）。

募集内容

「持続可能な開発目標（SDGs）」の「環境関連の目標」に関わる活動、地球温暖化対策、低炭素、生物多様性の保全、自然共生、資源循環など、「環境」に関わる活動。

ポイント

今年度、実践している環境活動を応募してください。

過去からの継続活動も応募できますが、主に今年度実践した内容について審査いたします。

選考審査

外部有識者などを含む審査委員により、地区審査会を開催し選考します。北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄の各地区ごとに審査し、出場団体を選考します。

審査基準

高校生の環境活動に対し、以下の観点から総合的に評価します。

自主性

着眼点

協力・協調

目標達成

発信力

課題の同時解決

表彰

◇ 全国大会に出場する全ての団体に、賞状を贈呈いたします。

◇ 最も優れた活動発表を行った団体に対して、環境大臣賞の贈賞を行います。

◇ 優れた活動発表を行った団体に対して、各賞、特別賞の贈賞を行います。

☆ 環境大臣賞：1校

（副賞として「海外体験プログラム」）

☆ 独立行政法人環境再生保全機構理事長賞：1校

（副賞として「国内体験プログラム」）

☆ 国連大学サステイナビリティ高等研究所所長賞：1校

（副賞として「国内体験プログラム」）

☆ 特別賞（高校生選考賞）：1校

☆ 特別賞（先生選考賞）：1校



第2回大会 環境大臣賞贈呈

高校生環境宣言

『未来へ～2050年に向かって、私たちの思い～』

東北6県の代表高校が一堂に集まり、「持続可能な社会」について学びながら環境活動の報告や座談会を行いました。「基調講演」や「環境映像研修」で学んだ後、自分たちの活動を『SDGs(持続可能な開発目標)』に照らし合わせながらそれぞれの思いを話し合い、環境問題に取り組む仲間との意見交換は大いに刺激になりました。また、座談会には講師、ファシリテータ、主催・共催者も参加し、高校生の今後の活動の一助となるアドバイスをしました。最後にこの日の学びを「高校生環境宣言」として発表しました。

開催日 2017年8月4日(金)

主催 独立行政法人環境再生保全機構 全国ユース環境ネットワーク事務局

共催 環境甲子園(NPO法人環境会議所東北)

協力 Date fm エフエム仙台(株式会社エフエム仙台)

基調講演 東北大学大学院環境科学研究科 香坂玲 教授

「世界・日本の問題と私たちの未来 ～自然共生と持続可能な社会を目指して～」

ファシリテータ Date fm エフエム仙台 石垣のりこアナウンサー



香坂玲 教授



石垣のりこ アナウンサー

高校生環境宣言(未来へ～2050年に向かって、私たちの思い～)

青森県 八戸工業高等専門学校

産業システム工学科マテリアル・バイオ工学コース



秋元 日菜子さん(3年)



中村 日向子さん(3年)

私たちは分析化学や無機化学などの専門化学を学んでいます。設備も豊富なので、水の分析化学実験など環境に関わる学びとともに実験技術を身に付けることも目標の一つです。自分でテーマを探し研究する「自主探求学習」や卒業研究にも取り組みますが、私(中村)はドイツ留学で学んだバイオマス発電について研究に取り組みもうと思っています。自分たちが今、勉強していることが、SDGsの「産業と技術革新の基盤をつくる」などの持続可能な社会につながっていくと思うので、技術の知識を深め、それを発信していきたいと思っています。

秋田県 秋田県立横手清陵学院高等学校

総合技術科 環境工学類



佐藤 萌愛さん(3年)



田中 柚さん(3年)

学校では建築・土木に関する専門的な知識と技術を学ぶ中で、環境保全や環境開発に取り組む技術者として必要な能力と態度を身に付けることを目標にしています。環境とは何かを考えると、人の生活・社会・学習・自然などさまざまな要素があります。例えば道路工事を行う際に人の生活のためだけでなく、「ロードキル」の問題など動物の生態系を考慮するべきだと思いますが、さまざまな要素を踏まえ、話し合い学び合うことの大切さを感じています。将来土木・建築に携わる者として、環境に対する倫理観を土木工事で示していきたいと思っています。

岩手県 岩手県立遠野緑峰高等学校

草花研究班



菊池 礼雄さん(3年)



菊池 成雄さん(3年)

遠野市は全国屈指のホップの一大産地ですが、年々生産者が減少していることが問題でした。私たちは廃棄され焼却処分されるホップの蔓から繊維を抽出し、世界に類のない和紙を完成させました。製作途中に使うアルカリ剤や漂白剤などの環境への影響が課題でしたが、今春、化学薬品を一切使わない製法を開発。ホップ農家と協同で産業振興を目指しています。これからさらに地域への普及を進め、廃棄されるものから副産物としてクリーンな和紙をつくることで、遠野に和紙文化をつくっていきます。各地域で取り組んでいる問題は共有し、協力し合うことが大事。世界を変えていくためにまずは地域から取り組み、発信したいと思います。

参加高校

- 八戸工業高等専門学校
- 秋田県立横手清陵学院高等学校
- 岩手県立遠野緑峰高等学校

- 山形県立加茂水産高等学校
- 宮城県柴田農林高等学校
- 福島県立安達高等学校



写真上：参加してくれた東北各県代表高校の皆さん。

終了後も和気あいあいと交流を深めました

写真下：座談会の様子。環境活動への思いを真剣に話し合いました



山形県 山形県立加茂水産高等学校

水産生物部



五十嵐 諒太さん(2年)



佐藤 優衣さん(2年)

授業で藻場のモニタリング方法を学び、部活動では実際に地元の漁業者とともに海藻が減少する「磯焼け」の環境問題に取り組んでいます。結束バンドやタイベスを使い、独自の海藻シートやチェーンアンカーを開発し「Kamoモデル」と呼ばれる藻場造成の仕組みを考案しました。現在は新たな海域で実践するための準備をしています。持続可能な社会へ向けて、自分だけの利益でなく世の中がよくなることを考えていくことが大事。みんなで貧困がなくなる社会を目指したい。今自分たちが取り組んでいる磯焼け問題などを、これからもSDGsにつなげていきたいと思っています。

宮城県 宮城県柴田農林高等学校

動物科学科 畜産専攻班



八島 怜香さん(3年)



大友 未彩さん(3年)

家畜の排せつ物問題について取り組んでいます。牛の糞はたい肥にするだけでなく、燃料にしたり、繊維を取り出して紙にしたり、食用キノコの培地として活用するなどバイオマス資源としての利用を模索しています。家畜は世界各国におり、産業として取り組めば飢餓問題や貧困問題の解消に役立つかもしれません。持続可能な社会のために、身近なものを有効活用するという意識が大切だと思います。不要と思われるものを必要なものに変える今の取り組みを進めながら、自分たちだけのものにせず広く活用できるよう、情報や技術を伝えていきたいです。

福島県 福島県立安達高等学校

自然科学部



齋藤 大冴さん(2年)



渡邊 沙羅さん(1年)

持続可能な社会をテーマに、自分たちが興味を持った活動を自由に行っています。私たちは「足元の再発見」をテーマに、二本松市の町を立体模型にして、地形や生活環境を視覚化し、より住みやすいまちづくりを考えるツールとして制作しています。また、市内のゴミを拾いながら、放射線測定し線量マップをつくっています。今回、自分たちの研究がSDGsにつながっていることがわかりましたが、今後はもっと能動的に取り組んでいきたい。自然界や身の回りにある放射線を含め、福島の現状を正しく理解してもらうためにも、放射線測定の結果は広く発信していきます。

ご参加いただいたみなさん、どうもありがとうございました。

『国連大学サステナビリティ高等研究所で学ぶSDGs』

2017年8月。持続可能な社会の実現を目指して活動をしている大学生が、国連大学に集まりました！自分たちが実践している活動や日常の生活が、「SDGs」とどうつながっているのか、大学生として「SDGs」にどう関わるのか……専門家から学び、意見交換をし、理解を深めました。

<大学生環境研修>の様子をレポートします。



国連大学

SDGs 概要研修

国連大学の取り組みとSDGsを活用した取り組みの発信

丸山 鳴

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)
プログラム・アソシエイト

国連大学は、人類の生存、開発、福祉など国連の加盟国が直面している地球規模課題の解決に取り組むための研究や教育を行っている国際的な研究機関です。世界12ヶ国に研究拠点があり、その1つであるUNU-IASでは、「2030アジェンダ(SDGs)」、「生物多様性および生態系サービスの持続可能な活用」、「気候変動および災害リスクの軽減」を優先課題とし、国内外の主要な研究機関と協力しながら、研究を実施しています。また、科学に基づいた知見が政策立案の過程に生かされるよう発信を行ったり、国際的に重要なテーマと地域の取り組みをつなげる活動を行っています。SDGsは、それぞれ立場や背景が違う国連の193の加盟国が全会一致で採択した目標です。SDGsの17目標を活用して取り組みを整理することで、課題の解決に向けた新しい視点が生まれます。また、世界共通の言語とも言われるSDGsを活用して、取り組みを発信することで、世界中に同じ目標に取り組む仲間が見つかるかもしれません。そのような多様な仲間とパートナーシップを組み、目標の達成への取り組みを加速化させていくことが大切です。



基調講演

持続可能な社会を目指すための授業デザイン

山藤 旅間

東京都立武蔵高等学校・東京都立武蔵高等学校附属中学校
理科(生物)教諭

8年前にブータン王国を訪問し、現地の学生が勉強に真摯に取り組む姿を見て、自分が行ってきた教育を大きく変える必要性を認識しました。今の授業では、課題のみを与え生徒が自ら学びを見つけられるような授業をデザインしています。生徒達が自立して学ぶことで、学びが目的化し、問いを解決するまで学び続けるという成果が表れています。SDGsは、気候変動や、今までに経験したことないスピードの日本の人口減少など、いよいよ未来が持続可能でなくなるという背景において、行動を変える必要性を示した大事な観点です。今の教育デザインでは、若い世代が、地域、企業、NGO、NPOと協力し、大人を巻き込み、大人の行動を変えることで、社会課題の解決を目指す活動を行っています。その一環としてボルネオ島スタディーツアーを実施しています。フィールドワークを通じて社会課題を学び、若者が自分にできることを考え、社会を動かす大人たちと一緒に活動することで、社会の活性化や大人の活性化につながります。今、取り組みをされている皆さんも、今後一層活動を広げてほしいと思います。



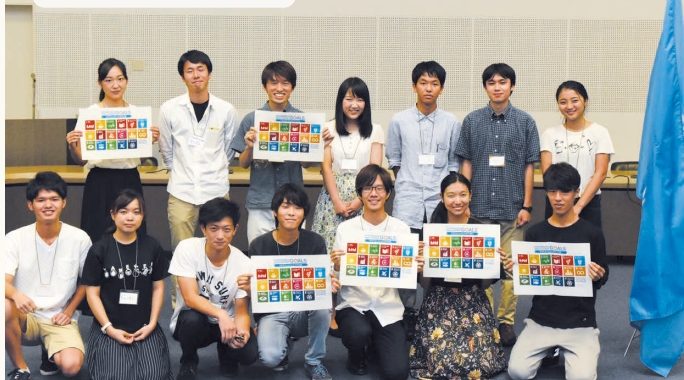
- RCE 横浜若者連盟
- 東京海洋大学うみがめ研究会
- 一橋大学国立あかるくらぶ
- NPO法人 千葉大学環境ISO学生委員会

- 明治学院大学エコキャンパスミーティング
- ボルネオ島スタディーツアー
- 全国大学生環境活動コンテスト

当日の研修内容

研修には7団体14人の学生が参加し、概要研修や基調講演を経てSDGsへの学びを深めた後に、大学生同士による自身の活動とSDGsとの関連性についての意見交換を行いました。活発な意見交換の後で、当日の研修を踏まえた団体ごとのSDGs宣言を作成してもらいました。

当日研修に参加した大学生



RCE横浜若者連盟

樋口 智大さん（横浜国立大学 3年生） 飯田 康平さん（東京都市大学 2年生）

ESDを推進する拠点の1つである横浜RCEにおいて、大学生が主体となって活動している団体です。横浜を拠点として学生と他セクター（企業、行政、大学、NPO・NGO等）と関わるからこそできる活動を行っています。

SDGs宣言

ESDを推進することが団体の理念の一つなので、今後も質の高い教育を地域内で実践することを常に意識したいと思います。

これからの社会を担う大学生という立場で行政や企業などの他セクターと連携し、持続可能性という視点をふくめつつ「楽しみながら」活動をすすめていきたいです。



東京海洋大学うみがめ研究会

角田 久美子さん（東京海洋大学 3年生） 笠井 崇弘さん（東京海洋大学 4年生）

ウミガメ類の調査・研究を主体としている団体です。ウミガメ類に関する教育、普及活動や、離島の研究施設での調査・保全活動および、それらの研究・活動の結果の発表を行っています。

SDGs宣言

これからは「海」を多くの人にとって一般的なものにしていきたいと思います。水産物や海洋生物が現在危機的な状況にあることや、いなくなった場合の人間への影響など、まだ「海」のことについて多くの人に知られていないことがあります。ウミガメを通じた海や海洋生物の現状、海洋資源の持続的な利用について、広く啓発を行いたいと思います。



一橋大学国立あかるくらぶ

熊野 壮真さん（一橋大学 4年生） 日野 仁泰さん（一橋大学 1年生）

国立市をもっと明るくしたい、一橋生がもっと地域に貢献できる場を作りたいという思いから設立された団体です。自作アプリを用いて散乱ごみの分布を把握し、ポイ捨てごみをなくすための提案や、調査及びイベントを開催するなどの活動を行っています。

SDGs宣言

ベンチャー企業との連携やごみ拾い活動へのアプリの導入など、これまでにない新しい技術や手法を地域に取り入れたいと考えて、「住み続けられるまちづくり」というゴールを最短距離で実現したいと思います。

また、次の世代を担う地域の子供達に対しても地域コミュニティの大切さを教えることが重要であることに、今日の研修を通じて気付きました。



NPO法人 千葉大学環境ISO学生委員会

林田 裕紀さん（千葉大学 2年生） 菱田 朋佳さん（千葉大学 2年生）

学内における環境マネジメントシステムの構築・運用を学生主体で実施している委員会です。大学の環境報告書の作成や環境に関するイベント・セミナーの開催など、学内外で環境に関する幅広い活動を行っています。

SDGs宣言

これまでは環境活動の目的や目標、その活動がどのような成果に繋がるかというビジョンをあまり意識せずに活動に取り組んでいました。今後は一つ一つの活動の成果や、それがどのような大きな目的へと繋がるかといった、つながりを意識して活動を行いたいと思いました。



明治学院大学エコキャンパスミーティング

高田 萌未さん（明治学院大学 2年生） 真野 恵輔さん（明治学院大学 1年生）

「ecoでつながる」、「楽しくエコ活」をモットーに、学内や地域の身近な環境問題に取り組んでいる団体です。廃油キャンドルによるキャンドルナイト、リ・リ・バックの回収やうちわの作成・配布など、「楽しい環境活動」を実践しています。

SDGs宣言

学内の学生とエコ活動を主にしているので、参加者自身に学生一人一人が持続可能な開発の担い手であることを自覚してもらいたいと思います。

今年度から学内で配布するうちわを作成しはじめました。学内の学生にうちわを使ってもらうことで、エネルギー消費について考えるきっかけを提供したいと思います。



ボルネオ島スタディーツアー

樋山 輝さん（明治大学 2年） 荻野 匠さん（明治大学 2年）

山藤先生のボルネオ島スタディーツアーに参加しました。ツアー後は現地の様子の写真を写真展に展示や、ホームステイの様子を記録したフォトブックの製作など、ボルネオ島の住民の生活の現状や近代化に伴う変化を、客観的に伝える活動を行っています。

SDGs宣言

ボルネオ島のパーム油の持続可能な利用のためには森の豊かさを保つことと現地住民の経済発展との両立が必要不可欠です。本日の研修を経て、ボルネオ島に住む現地の人達の生活を守ること、日本に住む私達の生活と物理的、精神的にどのような関連性があるかを、より多くの人達に普及させることが大切であると思いました。



全国大学生環境活動コンテスト

川原 拓也さん（慶應義塾大学 1年生） 須齋 あずささん（慶應義塾大学 4年生）

大学生による環境活動の活性化を目的に全国の学生環境活動団体の環境活動の発表大会を行っています。他にも学生の環境活動のニーズ調査など、学生団体の環境活動の全体の価値の向上を目指しています。

SDGs宣言

環境活動を実践している学生団体は全国に数多くあります。取組の内容も団体によって様々ですが、行っている活動がSDGsに結びついていることを自覚できていない団体も多いのではないかと思います。

全国から集まったコンテスト参加団体の学生に対し、自分の活動がSDGsと結びついていることを認識してもらい、SDGsを牽引する若者を増やしたいと思います。



全国ユース環境ネットワーク

高校生の環境活動 応募受付中!

詳しくはP5-6をご覧ください!

「第3回 全国ユース環境活動発表大会」

2018年2月3日(土)~4日(日) 国連大学 ウ・タント国際会議場で開催!



国連大学 (東京都渋谷区)

主催 全国ユース環境活動発表大会 実行委員会

〈環境省・独立行政法人 環境再生保全機構・国連大学サステナビリティ高等研究所〉

会場 国連大学 ウ・タント国際会議場

協賛 キリン株式会社

協栄産業株式会社

SG ホールディングス株式会社

三井住友海上火災保険株式会社

KIRIN

SGH

KYOEI

MS&AD

三井住友海上

大学生の環境活動の応募はこちらからお願いします。

第15回 全国大学生環境活動コンテスト 出場団体募集!

日時:2017年12月27日(水)、28日(木) 開催!

第15回テーマ: イマ、そしてコレカラ

「全国大学生環境活動コンテスト」は、全国の大学生の環境活動発表・交流・学習を行うコンテストです。学生だけでなく企業、行政、学識経験者、環境団体などの社会人の選考委員を交えて、1年間実施した活動の振り返り、評価を行います。コンテスト以外にも学生同士の交流イベントも実施しています。当日の見学のみの受付も行っておりますので、大学生、高校生の幅広いご参加をお待ちしております!



2017年10月1日から募集開始!

応募・詳細はこちら! → <http://www.ecocon.info/>

問合せ先

東京都港区西新橋2-11-5 TTK 西新橋ビル3F (株)ダイナックス都市環境研究所内 全国大学生環境活動コンテスト実行委員会
TEL:03-3580-8284 FAX:03-3580-8265 Mail:support@ecocon.info URL:http://www.ecocon.info/

環境省からのお知らせ

3Rの取組の環を広げるRe-Styleサポーターを募集しています!

くわしくは>>> [Re-Style](#)循環型社会推進応援ソング
巡り循環した環の中に

環境再生保全機構からのお知らせ



環境保全活動を支えるための

「地球環境基金サポーター」を募集しています!

地球環境基金は、民間団体(NGO・NPO)が行う環境保全活動を支援しています。地球環境を守るために、ご支援よろしく願いいたします。
詳しくはこちら ⇒ <https://www.erca.go.jp/jfge>

環境情報誌について

この環境情報誌は、「全国ユース環境ネットワーク事務局」より、全国の約5,000高校、約100大学サークル、および全国で環境活動を推進しているユースの方々にお送りしています。みなさまの環境活動に関する情報やご意見などを、どうぞ事務局までご連絡ください。



今年度も事務局を務めます。
みなさまのたくさんのご応募、心よりお待ちしております!!

全国ユース環境ネットワーク事務局スタッフ

発行

全国ユース
環境ネットワーク
事務局

〒212-8554 川崎市幸区大宮町1310番 ミューザ川崎セントラルタワー8階
独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金内 全国ユース環境ネットワーク事務局
Tel:044-520-9505 メール:youth@erca.go.jp

URL:<https://www.erca.go.jp/jfge/youth/index.html>